

1 平飼い採卵鶏農場における JGAP 構築指導

山城家畜保健衛生所

○福田 奈穂 森田 誠

5 【はじめに】JGAP は日本の農業生産工程管理手法で、持続可能な農業経営と消費者の信頼を確保する取組である。平成 30 年 11 月より管内養鶏場で JGAP(家畜・畜産物)の構築を指導したので報告する。【農場概要】A 農場は平成 29 年 11 月管内に移転、社長と従業員の 2 名で平飼い採卵鶏 4200 羽を飼養し、農場 HACCP 認証はない。取引先外資系企業に GAP 認証を求められ、JGAP 構築に取り組んだ。【指導内容】管内唯一の JGAP 指導員である当

10 所職員、社長、従業員の 3 名で週 1 回文書作成会議を行った。生産工程(管理点 6)は大雛導入から出荷・鶏舎洗浄までを「飼養工程」、作業が複雑な集卵は「畜産物取扱工程」とし、各工程のリスク評価を行った。飼養衛生に関する管理(管理点 4)及び動物用医薬品等の管理(管理点 17)は当所獣医師が行い、要指示薬は指示書対応とした。労働安全確保(管理点

15 16)のため斜面、高所、火気保管場所等に危険表示をし、入場者への注意看板、敷料保管庫や堆肥舎は自力施工し低コストに整備した。さらに、コンサルタントに文書作成や農場管理の指導を受けた上で、GAP 取得チャレンジシステムの現地確認審査を受けた。【取組の成果】これらの指導により JGAP 認証審査を申請し、現地審査が令和元年 7 月初旬に行われる。A 農場は作業者の少ない中規模養鶏場の JGAP 構築モデル事例となった。また、取組を通して農場の運営や衛生管理意識が向上し、新たな取引先の獲得につながっている。